

目的 現代的なCNNの性質や挙動に理解にしばしば使用される，特徴マップと有効受容野に影響を与えるアーキテクチャとして見過ごされてきた正規化層の影響の指摘と調査

内容 正規化層のみを置換した現代的なCNNを複数作成し，これらの特徴マップや有効受容野の概形・面積を評価する

結果 特徴マップについては，正規化の範囲によって活性面積が影響されること，これに伴う弱教師あり物体局在化性能の変動，バッチ正規化による物体部分を過不足なく覆うマップ生成の促進効果が明らかになった．有効受容野については，カーネルサイズに伴い正規化手法間での有効受容野の差異が顕著になること，チャンネル方向の分割数が有効受容野の面積を拡大することが明らかになった．

利用した計算機 SQUID ノード時間 3353.85時間